

新潟県

63年

公民館月報

12月
第430号

特集 地域づくりと生涯学習 その2

— 県公民館大会講義 (西ヶ谷 民) から —



細野稔人「鳥と少女」1976年
ブロンズ 高さ72cm
新潟県美術博物館所蔵

細野稔人(1932~)は新潟市生まれ。現在、二紀会委員。幼きものたちへのいとおしみをテーマに、無垢で若々しい生命感を掬いあげたような愛らしい少女像を作り続けている。戦後の県展から育った我が国具象彫刻界のホープの一人である。

第2回評議員会

第40回県公民館大会

明年七月七日に決まる

会場は長岡市立劇場で



木下会長の開会のあいさつ



糸魚川大会の反省を述べる寺崎氏

十一月十七日(木)、新潟市平安閣を会場に、本年度第二回評議員会が開催された。

昭和六十二年度歳入歳出決算の承認案件のほか、明年度の第40回県公民館大会は七月七日長岡市立

劇場で実施することなどが決定された。

また、新規事業として、当県公連創立四十周年を記念するイベントとして記念論文の募集をすることが決められた。

なお、評議員会終了後、有志により、本会元会長の石井耕一氏の叙勲をお祝する会が開催された。

介された。
議長に十日町市公民館長楳沢英男氏を選出し議事に入る。

総支出 一、八六一、三九九円
差引残額 八、九四九円
のとおり決算を得て、関係者の尽力に感謝の念をこめつつ承認された。

1 昭和63年度会務の中間報告
2 全国公民館連合会・関東甲信越静公民館連絡協議会の諸会議並びに研究会報告

3 来年度第40回県公民館大会について
中越地区公連、長岡市公民館運営研究会と三者主催により、七月七日、長岡市立劇場で開催することになった。(詳細は三面を参照)

1 昭和62年度歳入歳出決算の承認について
収入総額 二、九六六〇三円
支出総額 二、二五〇、四〇〇円
差引残額 七〇六、二〇三円
残額は昭和63年度の一般会計へ繰り入れ。

4 来年度新規事業として、当県公連創立四〇周年(昭和六十五年)の記念イベントとして、「記念論文」を募集することになった。応募規定など詳細は次号に発表する予定。

評議員会出席者三十三名。欠席五名、うち四名は委任状を提出。定刻十三時に開会。

まず、木下会長から、糸魚川大会(第39回県公民館大会)の成功、その影の力となった、上越公連・主管糸西公連への謝意が述べられるとともに、より一層の県下の公民館の絆を太いものにしようにと、開会のあいさつがあった。

2 第39回県公民館大会の総括について。
当初、会場が本県の最西端のため、参加者を多く望めないのではないかという危惧があったが、主管公連の努力によって予想を大幅に上まわり、

◇第30回関東甲信越静公研集會期日 昭和64年9月7、8日
会場 茨城県水戸市
◇月刊公民館(社団法人全国公民館連合会刊)
昭和64年4月から五〇円値上一冊四五〇円送料五〇円計五〇〇円となる。

た。続いて来賓の渋谷孜県社会教育主事が紹介された。

総収入 一、九六一、三五五円

なお同誌の購読はなるべく当県公連に注文されたい。

第40回 新潟県公民館大会開催要項

- 趣旨**
公民館が歩んできた40年を振り返り、先人の業績に謙虚に学ぶとともに、これからの新しい時代に対応する活力溢れる公民館を創造するための記念大会とする。
- 主催**
新潟県公民館連合会、中越地区公民館連絡協議会、長岡市公民館運営研究会
- 共催**
新潟県公民館振興市町村長連盟、新潟県教育委員会、長岡市、長岡市教育委員会
- 主管**
長岡市中央公民館
- 後援**
略
- 期日**
昭和64年7月7日(金)
- 会場**
長岡市立劇場大ホール
- 参加者**
公民館長・職員、公運審委員、社会教育関係者、公民館利用者
- 大会主題**
『公民館の今日の課題とその解決への方策』(仮題)
- 日程**

9:00	10:00	10:40	12:10	13:30	15:00	15:30
受付	開会式 表彰式	記念講演 (70~80分)	昼食 7:30 フレイション	パネル討論 『明日の公民館を語る』	閉会式	

- 講演** 記念講演(講師折衝中)
- パネル討論** 「明日の公民館を語る」
- 参加費**
1,700円(据え置き 昼食代 大会資料)

辛口

長岡市の中央公民館を利用して活動している「青年わくわく村」は私を含めわずか15名ばかりのメンバーであるが、地域おこしを中心として、若者に呼びかけ年間数回のイベントをこなして、今、注



目を集めている団体である。ここでは、若者が個性的で創造的な意見を出しあい、尊重し合い、発案し、企画し、運営するという形で活動している点が最大の特徴

勉強をさせてもらっている。しかし、これほどの環境が身近にありながら、今の若者は、趣味の多様化の影響もあってか「自分さえよければ」的な考えが多分に

青年よ

公民館を利用しよう

佐藤 友美

公民館の方からは、若者の目からは知り得ない広い視野からの助言をいただいで活動をますます魅力あるものにし、若者自身も社会

公民館の感がある。今、さかんに生涯学習といわれる中で、一番長い間かわりを持つてであろう若者は、自分たちの中に公民館の

存在を大きく持ち、目的を明確にし、自分たちの意志や意見を進めていく経験を重ねていくことは、これからの中で大切なことであろう。

我々「青年わくわく村」メンバーは、その先駆者としての自負をもって頑張ると共に、公民館の方からも、より若者をひきつけるイベントの側面的援助を期待したい。

若者よ、公民館に集まろう。

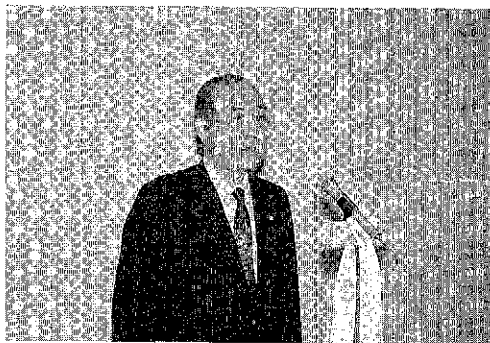
(長岡市立保育所保母)

叙勲をお祝する会を開催 意気軒こうたる

石井元会長

十一月十七日、第二回評議員会終了の後をうけて、午後三時から評議員有志により、元会長石井耕一氏の叙勲を祝う会が開催された。

石井氏は、昭和四十九年から五十九年までの十年間にわたり当県公民館連合会の会長をつとめられた方。当時の当会は財政危機に見舞われた時代で、市町村分担金の増額や県補助金の増額に基力され、今日の健全運営の基礎を作られた方である。この秋の叙勲により勲四等旭日小綬章受彰の栄に浴された。



このあと、近藤副会長の発声により、祝盃を交わし和やかな談笑が展開された。

石井氏は、健康診断の結果、肉体年齢は五十代前半の若さだと医者から折り紙をつけられていたと、意気軒こうたるものであった。いつまでも息災で一層の活躍を期待する空気が会場を覆った。

往時の石井論文を例示しながら本会への功績を讃えるなど心からのお祝いの言葉を贈った。

これに答えて石井氏は「私の叙勲は、自治功勞なのだが、社会教育とりわけ公民館の振興に関する努力も評価されていると

講義要旨 その二

地域づくりと生涯学習

— 共生共助の住みよい地域を —

講師 西ヶ谷 悟 (東海大 学講師)

昭和48年の国の生涯教育に関する国民世論調査で、86%が学習をしたい(このままの人生を終わらたくない)と答えています。これは大変な数字です。生涯学習が世界の新しい流れとして国連で決議したのが昭和45年ですから僅か3年の間に日本人はそんなに高い数字を示したのかと世界の教育関係者が驚きました。このような学習意欲の増加の理由は三つあります。

1 知的生産力の向上と技術革新

— 専門教育体系 —

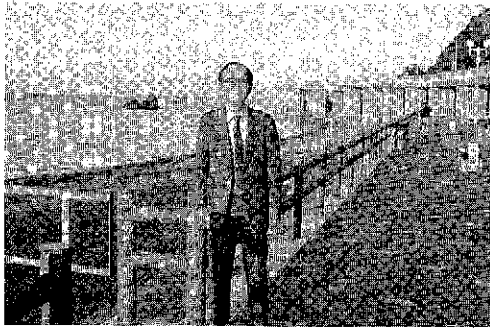
①時代の急激な変化への対応
いま、高度情報化社会が進んでいます。マスコミを例にしますと、日刊新聞は一日に五千万部売れています。日本の世帯数はおよそ三千八百万世帯ですから一軒に2種類以上の新聞と、その他に業界紙やスポーツ紙、娯楽紙などが発行されています。

からまさに新聞社会です。それは、活字メディアを使った情報を買っているわけです。図書は、年間三万点の出版をみています。トットちゃん一冊で百万冊以上売れている本を含めての三万点ですから冊数は大変な数です。雑誌は二万七千種類の月刊誌週間誌が発行されています。

この他にもまだ情報は限りなくあります。あまり多くて、時には情報に振り廻されることになり、情報病も生じます。したがって、使えるものを選択する能力が求められてきます。

②社会は学歴では評価できなくなる。
古くは、家柄により、財産に

より人間を評価する時代が続きました。明治以降は学歴による評価が主流の時代になりました。しかし、これらの評価の物差しは一年一年下落してしま



ピアパークでの講師

にはゼロになるとというのが情報化社会なのです。「情報が生産され、流通して、消費して終わってしまふ」つまり、陳腐化の速度が非常に速くなっています。

アルビントフラーは、ありとあらゆる知識技術が1年間に平均9%が使えなくなっていると言っていますから、一年に9%使えないのであれば、10年学ばずにおれば90%が役に立たなくなっているわけです。それでは十年生きていても「ついでに生きていた」ということになりかねません。ですから、「した」という過去形ではなくて「している」という進行形の学習が価値になっていきます。「若い時はスポーツをやって元気だったが、今は寝込んでいます」というのはだめなもので、「若い時は弱かったが、健康に注意したのでいまはこんなに元気だ」といっています。というほうがいいわけです。「どこの学校をでたか」というのはあまり意味がありません。「その後どういうふうに進んでいるか」というほうが価値があるわけです。

2 文化の享受と生活の充実

— 教養教育体系 —

生活水準が向上し、自由時間が多くなってきました。このゆとりな時間を価値ある時間にしていかねばなりません。「余暇は人生の試金石」といいます。豊かな文化を享受していき、新しい文化を作りだしていき、文化の新しい担い手になろうと

私たちはみんな真剣な企業内の学習をしています。
学習意識調査をすると、一番学びたいという人は35歳から45歳の男の人です。この人たちが一番学習意欲が高い、しかし、現実には公民館ではその人たちがあまり受けとめていない。職業教育とか、生産性を高める学習、所得をふやしたり、暮らしをよくするための学習を公民館ではやっていない。これは問題です。「地域づくり」という中には当然経済の活性化ということもあるわけです。

また、情報化が進んでいきますと、情報をどう入手するかによって、価値観が混乱し、人々の心がつながらなくなるという心配もおこります。ですから情報化社会をどのように人間の幸せに役立たせていくか、が問題になります。

いう考え方が各地でさかんになっています。それが、絵画教室や彫刻教室などのようないわゆる趣味・教養に人気がおこっている理由です。人生をより豊かにするために、そして、自分の文化を作るために、という事です。これを教養教育体系といえます。

3 うるおいと活力のある地域づくり

—地域教育体系—
生涯学習をどうしても進めなければならぬとする第三の理由には、「豊かな地域になること」にあります。老いを支えたい、痛みを分け合う共助の地域社会をつくることです。

誰にも老後がやっけます。今は元気であっても、やがて、老眼鏡をかけたり、足腰がたたくなくなったりします。ですから現在の立場で考えるのではなく、人生80年のライフサイクルで見ると、みんなが支えあい、痛みを分け合う「共生」「共助」の地域をつくるのが大切となります。

そこでは、学習というのは自分だけ学ばないといふものではなく、自己充電型だけでなく、地域放電型つまり、地域に還元することであり、地域に活かした時にはじめて学

習の本当の力が発揮されるものですし、個人の存在感もはつきりしてくるわけです。その還元方向は「住みよい地域をつくる」ことであります。揺るぎない古里づくりです。21世紀に胸を張って譲ってやる供用財産としての、「共に生きる地域」であります。

吉山松陰の語録に「地域を離れて人無し、人を離れて暮らし無し、暮らしを離れて学問無し」とあります。人づくりは家庭づくり、家庭づくりは地域づくりです。このことは、言い得て困難なことですが、実行に移すことができるように、学習を力のあるものにしていくということです。「公民館はさすがに実力があるなあ」というものにしていくという事です。「公民館は無

いよりあったほうがいいよ」というのではなく、「無いと困る、無いと地域がよくならないよ」というものにしていく必要があります。そういう公民館に変えていくことが大切なことであります。みんなで助け合い喜びを共にする地域、辛い時にみんなを励ましあう地域を住民によってつくるという事です。また、共に生きていくには、霞を食べているわけにはいきませんから、地域の生産を自立化・活性化しなければなりません。地域

の生産は、生産者だけではむりです。消費者の協力が必要になります。住民のみんなが協力して生産の自立化活性化を進める。そこで暮らし住民の生活(教養・文化・レク・スポーツなど)をよりきめの細かな充実したものにしよう、という考え方が地域づくりです。これを買くものが、人間の意識の開発と、自助、



質問に立つ

自立の精神と、その精神を形あるものに変えていく行動力であるということ。その人づくりが公民館の原点です。戦後の焦土の中に芽生えた時の理念です。

三、地域づくりと生涯学習の援助・推進

産業は日まぐるしく変わって

います。第一次産業は困づくりの基盤ですが、その第一次産業も貿易の自由化の中で押されています。牛肉やオレンジの完全自由化が余儀なくされました。次にやってくるのは米です。待ったなしでやってくるだろうと思えます。そうでないとしたら種子を買えというでしょう。そうしませんが、第二次生産品としての自動車などの工業生産品を向こうが買わないという。日本の経済は頭打ちになってしまっています。そういう国際化の中では、日本でしかやれない1.5次農業しかありません。この1.5次農業は全国各地ですに取り組んでいます。例えば、農業に取り組む人がまずコンピュータなどの情報機器に習熟する。そしてその特徴を知ってソフト面を生かす。また、自分でソフトをつくるようにする。そして、それを使って市場価格をインプットするとか、今年の天候やノウハウを全部インプットしておき、作付け計画をたてる。コンピュータがあって、便利で、自分たちが作ったものが高ばれ、どこに買手があるかよく分かり、やがて自分たちで値段をつけて売ることが出来るというように生き生きとやっていると

業です。これが1.5次農業です。

第2次産業では、製造業は新興工業国の追い上げが厳しい。シンガポールや韓国等が日本を追い越そうとしています。こういう情勢に負けないためには一歩前へ出る必要があります。2.5次化しなければなりません。日本では第3次産業が一番多いわけですから3次4次を目指して、当面3.5次化の必要があります。その0.5次のレベルをあげるのに、高度の技術を取り入れなければなりません。いま、日本の経済を引っ張っているものは三つあるといわれます。①はマイクロエレクトロニクス産業、②は新素材、③はバイオテクノロジー、この三つがベースメーカーとなつて産業界を大きく引っ張っています。だから、農業のなかにもこれがどんどん入ってくるだろうと思えます。朝糧を蒔いて、太陽電化ナトリウムを照射して夕方には出荷しようというような野菜工場のような所が私の家の近くにもいくつか見られるようになりました。

くだいようですが、生涯学習は趣味に止まっているものではなく、ゆるぎない古里を作るために必要なものであります。

四、地域づくりの

今後の方向と公民館

1 新しい地域づくりの特徴と方向

最近、新しい地域づくりの時代といわれます。それをどこでもやっているのですから、地域間競争の時代ともいわれま

す。抜きつ抜かれつしながらしのぎを削る思いで、新しい地域を作ろうとしているわけです。

なぜ、いま「新しい地域づくり」なのかと申しますと、これまでの高度経済成長期の地域づくりは、経済を中心としたものでした。そこには、お金になるものを作るといふ発想がありました。いまの地域づくりは、これからの、成熟化、高齢化、に対応して、いまからしっかりとした基盤をつくるために人間を中心とした(人間尊重の)地域づくりです。

「兎追いし彼の山」をいかした地域づくりで、古里を持つ子供を育てられるような地域にしようということですが、

これまでの地域づくりは、他からいふんなものを「誘致」した地域づくりでしたが、これからは、人間の能力など潜在的な可能性を引き出す「湧出」する地域づくりです。上からの地域づくりでなく、自分たちでの地

域づくりです。住民が主役です。お金でなく知恵と汗が主役なのはご存じのとおりです。70年代半ばには「中央から地方へ」といいましたがこれは、中央で発想した言葉です。中央ではもはややっつけていけないから地方に期待するというので、これは縦の発想です。これではいけない。地方ではなく、地域です。縦の関係をなく横の関係、ネットワークする発想です。リジョンからナショナルへ、ナショナルからインターナショナルへと

いうように発想を変えたのが新しい地域づくりです。地域に誇りを持ち、自信を持って取り組む、そういう形での地域づくりが各地で進められています。

新しい地域づくりを進めるには「生涯学習を通しての地域づくり」という方向性を持たないとうまくいきません。つまり、学習を欠いた地域づくりは成り立ちません。生涯学習が地域づくりの決め手となっていきま

す。「住めば都」というやや諦観的なまぢでなく、「住む以上は都にするぞ」という積極性です。先ほどの実践発表でも言っていましたように、「嫁がこなくて困る町」から「嫁がきたがる町」にすること。私の近くの過疎の町で「嫁のきたがる町づくり」を目指して公民館がとりあげ嫁

のくる町にした事例があります。そのように、過疎の村は過疎なりに、過密の町は過密なりに、それぞれの地域課題を解決する元としての学習が進められるように、内なる人間形成をするのが生涯学習であります。「遠い親類より近くの他人」といいますように、人間の喜びは「よき隣人と共に住める幸せ(国際婦人年の決議)を得ることであり

ます。しかし、この住みよいまちづくりの「住みよい」というのが時代と共に変わっていきます。次の図式のとおりで

住みよい地域づくりへの図式

↑↑↑ソフト 住みよい ハード↓	↑↑↑ソフト 住みよい ハード↓	住み心地のよい地域	人間性=温帯と太陽 快適性=文化、教養の施設スポーツ、レク等の施設
	住みやすい地域	利便性=交通の便と無事故 ・良心的な商店が多い ・生活関連施設が整備される	
安心して住める地域	安全性=盗難・暴力などの治安面、自然災害からの安全 安定性=地場産業が自立した安定した暮らし 健康性=大気汚染、日照条件等からの安全		

みよい地域づくりにおいて公民館が開拓する部分はソフト面であり、二宮尊徳のいう心田の開拓ということであり、江戸時代の飢饉が多かった時に、二宮尊徳は農村復興でいちばん大切なのは心田開拓であるといいました。日に見える百町歩の田が荒れていても、それは

心配することはない。そこに住む人々の心が荒れているときこそ問題だ。心の田を耕すことが出来れば、荒れ田も春には青田になる、と。まさにこれが教育活動です。

2 公民館の具体的な役割 求めに込める活動を

河川開発にしても、最初は治水が重点になるから護岸に力を入れる。ついで、活水事業から利水事業へ、そして最近では、親水事業(観光)や楽水事業(レジャー)というように意識が変わってきています。そのような変化の様子(地域診断の仕方、地域をどう見るかの見方について)の学習を進める。そして一方に、得た教養教育体系をそこに生かしていく。このような公民館活動がいまいちばん求められている。また、それをやるのは、日本では、公民館しかないのです。こうした切ないような期待が公民館に寄せられています。

学習要求は80%の人が持っているのに、実際に学んでいる人は30%しかない。残りの50%は、思っているが行動に移さない人たちです。なぜ行動に移さないのかというと、場所が遠いなどの理由もありまじょうが、多くは、いまの公民館活動のなかに住民が求めている課題解決

の手がかりになるものがないからです。公運審の知恵を借りるなどして、求めに込める活動をしなければなりません。

不変の真理と可変の論理

国を挙げて生涯学習時代と言っていますが、そうならないと、これからはやっつけていけないからです。9月に入学式を持っていくとか、休日を週2日にするとか、余暇を楽しめ、などと言っていますが、いまは、そうした世の中になっ

ていくのです。国際化すると一方から見るとフェアーだと思ふことが他方から見るとアンフェアーだと指摘されるからなんです。

そういう状況を受け入れつつも不変の真理が一方にありま

す。可変の論理の一方に不変の真理がある。不変をしっかりと握りつつ可変を見ながら運営していくことが公民館の関係者に求められている大きな期待であるろうと思ひます。

公民館活動がこれまでの実践の上に立って、きたるべき時代に向けて、更にステップアップしていくように今後のご活躍を期待申し上げます。

講義的部分的割愛や意図の誤りはすべて編集子の責任です。講師西ヶ谷先生に深くおわびします。

(上村記)

青振法は生きています 十日町青年学級開設四〇周年

十日町市公民館では、去る11月20日(日)十日町青年学級開設四十周年の記念式典を盛大に開催した。

青年学級振興法の制定は昭和28年。それに先立つ5年前の昭和23年4月に十日町青年講座として開設され、以来今年で四十年を迎えたものである。会場には、50歳を越した卒業生から現在の学級生に至るまでの多くの人たちが埋めつくされ、それぞれに四十年の歴史をかみしめていた。

かつて、燎原の火の如くに全国に青年学級が開設されたが、



式典 壁画除幕式

青振法が制定されたころから皮肉にも衰退が始まり、現在は本県では十日町青年学級が唯一つ消えずに残っている燈火である。

なぜ十日町に火が消えないでいるのかを若干の関係者に聞いてみた。すると一様に次のことが返ってきた。

①教育委員会や公民館は決してカリキュラムを押しつたけり青年の気持を歪曲したりしなかった。

②青年たちの、青年たちによる学級として、青年自信が求めている学習内容を編成してきた。

③講師陣が、青年の気持を理解し、青年の求めに応えるような指導をしてきている。

以上の三者が一体となって学習プログラムの編成をし、マンネリズムを排するように工夫してきたことである。

しかし、編集子は式典に参列して更に二つの理由を見つけたように思った。その二つとは、①演親会なる青年学級演劇コースOBによる演劇「ブスむかし」を鑑賞したことである。

驚いたことにセリフのすべてが方言だった。あまり奇麗とは



十日町青年学級の歌大合唱

いえない魚沼辨をムキ出してのセリフの中に、自分たちの地域の生活を愛し、地域の文化を守ろうとするひたむきな姿勢を思い知らされた。地域に自信を持ち生きているものの存在感を青年学級が継承しているように思われた。

②その二は、記念のモニュメントに、タイトル壁画「明日への息吹」の除幕式があったが、この壁画づくりには、神奈川県茅ヶ崎市の小和田公民館と、愛知県常滑市の常滑公民館の青年学級との友情交歓が大きな力を持っていたと聞く。遠く県外の仲間と手を結ぶことが、壁画だけになしに青年学級の活力になっていくに違いないと思つた。

今後の一層の発展を祈る。

(上村記)

田上町公民館社会教育主事

太田 芳久氏 (34歳)

公民館勤務四年目のベテラン。仕事が楽しくてしょうがないという自信にあふれた顔。

「今、力を入れていることは？」

「婦人対象の事業です。婦人学級と講座がどうやら定着してきました。婦人としての生き方に関する学級や講座はみんなから好評を得ています。婦人の団体が80人ほど自主活動をしていきます。その他のお手伝いも忙しいです」



「最初感じたことは組織レベルの仕事がしにくいこと。それと専門性が要求されると感じました。そんな中で、個性的な仕事ができるのは魅力ですね。」

ね。中でも「ママさんコース」は自主運営ができるようになって六年経ちますよ。」

「成果が目に見えてやりがいがありますね。田上らしい特色のある仕事は？」と聞くと、

「護摩堂山の早朝登山です。四月から十月まで毎月一回家庭の日に実施しているんですが、朝六時出発、若者男女を問わない町内・家族登山です。「地域のふれあい」と「家族の話しあい」をモットーにして、十年以上続いている長寿イベントで、年々盛大になっています。」と明快な答が返ってきた。(上村記)

素顔拝見

新潟市中央公民館主事

大矢 克巳氏 (29歳)

冬はスキー、夏はテニスとスポーツ大好き人間。飾らない人柄と旺盛な好奇心。ホープさんとして只今活躍中です。

公民館職員の魅力は。

「最初に感じたことは組織レベルの仕事がしにくいこと。それと専門性が要求されると感じました。そんな中で、個性的な仕事ができるのは魅力ですね。」

「ゆっくりと言葉を選びながら答えてくれ、誠実な人柄がしばれます。」



「企業委員会を作ってテーマを絞ろうとしたんですが、人それぞれ、人をまとめる難しさを感じました。」

「そんな時の気分転換の方法は、体を動かして汗を出します。酒飲んで、憂さ晴らしはしないですね。(えっと、筆者は大きく驚いてしまいました。)」

「自分のPRをどうぞ」

「安心してつき合える男です。」

(新潟市東地区公民館

小川 昇)

「生涯学習推進会議委員」と「生涯学習推進員」の違い

お尋ね



最近、市町村では生涯学習体制の整備が關心事となっています。その体制整備について、「生涯学習推進会議委員」と「生涯学習推進員」の設置が勧められていると聞きますが、この二つの役割機能の違いを教えてください。

(匿名希望)

お答え

一言でお答えすれば、生涯学習推進会議委員は会議の委員ですし、生涯学習推進員は文字通り生涯学習推進のための直接的な仕事をする人ということになります。以下、両者にかかわる若干の補足をしてみたいと思います。

「いつでも」「どこでも」「だれでも」という言葉で代表される生涯学習は、一つの組織や機関で推進できるものではありません。そこで、行政担当者、社会教育関係団体、学校、民間関係者、学識経験者等で構成し、生涯学習を総合的に推進するた

「生涯学習推進員」の違い

めの協議や連絡・調整を行うことを目的とする組織の設置が奨励されています。それが生涯学習推進会議です。

この会議は、本年五月現在、県内の三市九町二村で設置されています。

生涯学習推進員の設置は、昭和六十年三月に出された「新潟県生涯学習推進基本構想」の中で、当県の生涯学習推進のための課題の一つとして提唱された

ものです。(当時の表現は生涯教育推進員)

この推進員の役割としては、

- ・ 地域の人々と日常的な触れ合いを通じて、学習意欲を喚起する。
- ・ 学習希望者の組織化を支援する。
- ・ 学習に関する諸相談に応じ、特技を通じて学習活動を支援する。
- ・ 学習情報や資料を収集し、地域住民に提供する。

などが考えられています。

なお、これに類似したものであるとして社会教育指導員、体育指導委員、家庭教育相談員なども置

かれています。学習活動全般にわたる生涯学習推進員との組合せを工夫することによって、それらについてもより一層の効果が期待できるものと思われま

す。

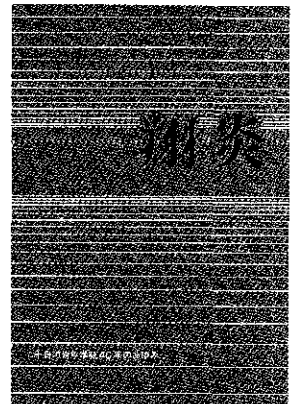
調査資料がなく、県内市町村におけるこの推進員の設置状況は把握されていませんが、生涯学習モデル市町村事業に取り組んでいる市町村等をはじめとして設置が進められてきています。

(県社会教育主事 関 宏司記)

翔 炎

十日町青年学級開設四十周年記念実行委員会刊

資料紹介



十日町青年学級の開設四十年の歩みを綴った記念誌である。編集の総べてが、現役の青年学級生やOBによるものだという。内容には、講師・青年学級三事・学級生の三者による思い出によって沿革の歴史が記されている。そこには、決して平坦ではなかった四十年がうかがわれる。

草創期の「青年講座」のころの補習学習としての運営の時代、青振法制度以後の「青年学

級の運営の時代、コース別学習や全体学習とマンネリズムを排する創意と工夫による四十年の歩みは、部外者にも参考になる価値ある資料である。

前年36ページは四十年の記念誌で、後半の40ページは十年前の「翔炎」つまり、昭和53年の三十周年記念誌の復刻版である。

B5判・頒価七百円、購入希望者は、十日町市公民館へ申込みたい。

あとがき

◇今年もあと数日となりました。生涯学習で明け、生涯学習で暮れた一年でした。来年は地道な実践の年になるよう役立ちたいと思います。

◇それにしても、臨時国会の大幅延長の余波を受けて、予算国会は年明け。文部省の生涯学習局元年の施策が気になる正月です。公民館建設費補助額の四五億三千六百万円は要求額どおり満額査定を切望する次第。

◇二面に掲載のとおり来年度の県公民館大会、関プロ公研集会、全国公研集会の開催月日、会場が決まりました。中でも、全国公研集会が関プロ内(大宮市)で開催という得難い機会です。多数の参加を期待します。今から予算組み等準備をお願いします。(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会
 【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
 【電話・新潟 (025) 224-6073】

発行人 会長 木下 清 一
 編集人 事務局長 上 村 捨二郎
 【定価1部 120円 千共・年板 1,440円】